

東嶺山だより

令和4年4月号 通刊171号

355-0044 東松山市正代778-3 電話 0493-34-3706(6555) FAX 0493-34-6555
email:semyojuji@yahoo.co.jp HP:tosaki.web.fc2.com/index.htm 携帯 090-2446-5209

令和4年度 世明寿寺護持会総会

日時 4月17日 (日) 午前10時

会場 世明寿寺 *「3密」に留意して開催します

■はなまつり(「^{かんぶつえ}灌仏会、^{ぶっしょうえ}仏生会」)

4月9日(土)～10日(日)

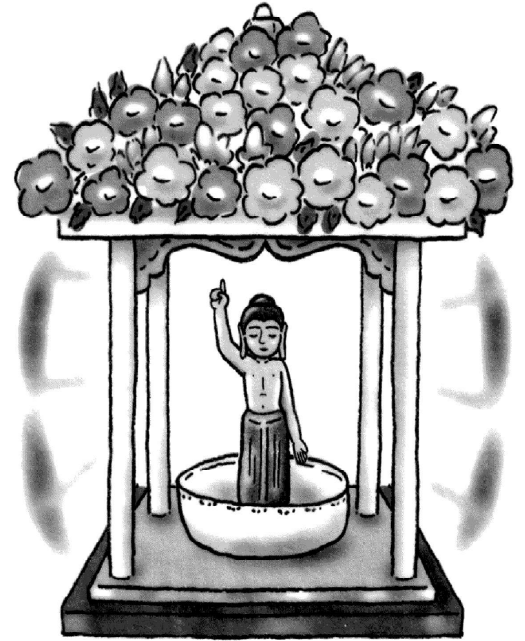
お釈迦様がお生まれになったのは今から約2500年前の4月8日。インドの北、カピラ国のルンビニー。はなまつりは、お釈迦様の誕生をたたえていとなまれる法会です。

花園のルンビニーになぞらえ色とりどりの花で飾られた花御堂を設け、その中に「誕生仏」を安置します。

はなまつりの歴史は古く推古天皇の世に法会が催されたという記述があります。

お釈迦様が生まれたとき竜王が香水の雨を降らせ、お釈迦様の体を清めたという伝説から、甘茶を濯ぐ風習が広がりました。甘茶は甘露のことで、甘露とはこれが天から降り注がれると、人々の苦悩を取り除き、長寿を得ることができると言われています。

家に持ち帰った甘茶で墨をすり、「昔より卯月八日は吉日よ 神さけ虫を成敗ぞする」と書いた紙を貼っておくと雷よけや害虫駆除に効果があると言われています。



【天上天下唯我独尊(てんじょうてんげゆいがどくそん)】

お釈迦様は、生まれたとき、このように叫ばれたと伝えられています。

もちろん、生まれたばかりの赤ちゃんが叫べるわけがありません。お釈迦様の誕生は、仏教の誕生につながるのです。後の人が、お釈迦様の誕生にことよせて、仏教の思想を一言でいうと「天上天下唯我独尊」である旨を表明したのです。

「宇宙のすべての存在は、それぞれ仏の命を具えているから、平等にみな尊い。一人一人がみなかけがえのない尊い存在である。オンリーワンである」ということであって、決してナンバーワンだという思い上がりの意味ではありません。

お矢がせ

■死後より“いま” ～先の見えない今だからこそ～

いつの時代も世間の人々は「仏教の教えは悟らなければ用いることができない」と思っています。しかし、仏教の教えというものは悟りの有無に関係なく、只いまの自分の心によく用いて、いまの問題に役立てるものです。(鈴木正三)

仏教というと、「死んだ後、あの世で極楽に往生させて貰うための教え」と思っている一曹洞宗の禅僧・鈴木正三が活躍した江戸時代の世間の人々は、このように考え、また140年後の現代人もそう考えている人も居るかも知れません。

私たちにとって、本当に大事なことは“死後”といういま見えない先のことより、いまこのときを“生きている”ということです。仏教の開祖・お釈迦様がもっとも大切に説いた教えは、「今日一日を大切に生きる」こと。そのために、私たちが只いま苦しんでいる問題を解決するための心の在り方や考え方を説いたものが仏教(仏法)なのです。



上記の正三の教えは、その根本思想を改めて日本人に説法したものです。

仕事であれ、学問であれ、日常生活の過ごし方であれ、それが他人から見て、いかにくだらないものであったとしても、自ら一日一日を一生懸命にやって満足感を得る。結果よりも、その満足感を得ることができれば、その心に不安はなくなり、今日一日生きられたことを感謝できるようになります。そうした生き方ができるように、目前の問題を解決するヒントをはじめ、一生懸命になるための在り方や満足感を得るための考え方を説き、只いまの自分の心に役立つものが本来の仏教の教えなのです。

■今月のことば

「歩歩是道場（ほほこれどうじょう）」

仕事に対して、「これは力をつけるのにもってこい、全力を尽くそう」と考えることがあります。その仕事が自分の力量を高める“修行”と見ているわけです。「ちえっ、こんなの新人の仕事じゃないか」ということもあるでしょう。それは、だめと禅はいいます。修行になる仕事があるのではないのです。どんな仕事でも修行にするのです。

どこにいても、そこが自分の道場であって、何をしても、それが自分を高める修行なのです。

■4月の予定

- はなまつり 9, 10日
- 護持会総会 17日 午前10時
- 寺子屋 16, 30日
- 坐禅会・写経会 10, 24日 坐禅：7時 写経：8時 ヨガは都合により当分の間休止中